

10年後の自分への手紙

ラオ スルンチャーイ

「チャーイ君、久しぶり、元気？結婚しているよね、博士学位も取ったよね…」それは私が40歳の自分へ書いた手紙の冒頭です。確かに、自分へ手紙を書くなんて、つまらないのではないかと思われるでしょう。

アンジェラさんの「手紙」をご存じでしょうか。私はこの歌を聞いた時に、未来の自分へ手紙を書きたくなる何回も思ったことがあります。そして、ついに2016年に仕事を辞めて、事業を始めました。その時の将来に対する自信や期待感を未来の自分に思いだしてほしいと思って、30歳の自分に手紙を書きました。未来の自分が今書いていることをもう一度読んだらどういう気持ちになるだろうと好奇心を抱いていながら、書きました。手紙の内容には、久しぶりに会う人に送るような挨拶や、その時の不安、将来に対するわくわく感や、30歳の自分に必ず叶えてみせたい目

# スル・4ヶ月②

東京工科大学外国語学部日本語科3年生 作文4

標などをいろいろと書き込みました。  
 長いようで短かった2年間があっという間に経ちました。2018年の誕生日の夜かやってきました。あの夜、過去の自分が書いてくれた手紙をもう一度読みました。読んでいる間は、何だか2年前の自分と同席で読んでいたような気分でした。「ごめん、まだ車を買うお金がないんだ。でも、お前のおかげで、財金で大学に入れたんだよ」といういろいろできたこともできなかったことを反省しました。思わず涙をこぼしながら、過去の自分に謝ったり、感謝したりしました。これからの自分がどう生きるか、どういう道を選択すればいいか考えさせてくれた泣けて笑える手紙でした。書いてよかったと思います。そして、その夜の気持ちや新たな決心や覚悟をま葉にして、新しい手紙を書きました。今度は2年じゃなくて、10年後、つまり40歳の自分に書くことにしました。始めに書いてあるように、結婚することや博士學位を取ることは敬えて自

# ズルン40-I (3)

立命館大学外国語学部日本語学科3年生 作文4

分との約束をしました。それ以外は65キロまで痩せたり、公開したアプリケーションの利用者を10万人まで増やしたりすることなどの内容でした。将来は全部実現させたら、40歳の私がどれほどうれしいだろうか。考えるだけでわくわくします。

あれから3年間過ぎてしまいました。今年には33歳を迎えようとしています。40歳まであと7年間ですが、私は一日たりとも、自分の目標を忘れていないし、一日も休むことなくジョギングをしています。目標を成し遂げることは簡単なことではないとわかっています。常に新しいことや困難に挑戦しなければなりません。だが、苦勞は覚悟のうえですから、最後までやり遂げたいのです。

未来の自分がほほえみながら、今向かっている自分を迎えてくれるように、「ありがとう」と言ってくれるように、自分らしく生きようと思っています。